

一般選抜 前期 D

試験問題

国語

【注意事項】

- 一、試験開始の合図があるまで、この表紙を表にして、この試験問題冊子を開かないでください。
- 二、試験問題冊子は、七ページ（この表紙は含めません）あります。
- 三、試験終了後、解答用紙は、すべて回収しますので持ち帰らないでください。
- 四、試験終了後、この試験問題冊子は、持ち帰ることができます。
- 五、問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて日本の企業が重きを置いていた先進国の市場は、ライフスタイルが日本と ^a似通っていました。そのため日本人の感覚で製品開発を行っても、市場からはそれほど違和感なく受け止めてもらえました。(ア) 経済成長著しい ^b新興国は、文化も生活環境も日本とは明らかに異なるところがあります。だから文化面、ライフスタイルにまで踏み込まないと、まったく売れないということが起こり得ます。

(イ) インドでは、カギのない冷蔵庫は売れないと聞きました。背景にはインド社会の ^(注)カースト制度があります。インドで冷蔵庫を使っているのはまだまだ経済的に ^c裕福な層だけで、こういう家庭にはたいい階層の異なる人たちが使用人として働いています。つまり家の中に他人が入り込んでいます。彼らはカギがかかっていない冷蔵庫の中にある食材は勝手に持ち帰っていいと受け止めているので、冷蔵庫の機能としてカギつきは ⁽¹⁾当たり前だし、そのように使用するのが常識になっているそうです。

こういうこともまた、現地のことを知らないとわかりません。日本の感覚で製品開発を行っていたら、求めている機能がないものになってしまいます。インドだけではなく多くの新興国では、日本より韓国家電メーカーのほうが広く支持を集めています。それは韓国メーカーがその国ごと、地域ごとの文化や生活環境などを取り込んで、どのように使われるかを考えて製品開発を行っているからです。そこは ^d謙虚に見習うべき点です。

やはり新興国で広く支持されている冷蔵庫に、こんなものがあると聞きました。それは電気の ^e供給が止まっても、一定の時間、冷蔵機能が維持されるようになっていく冷蔵庫です。開発販売を行っているのは、やはり韓国のメーカーです。

つくりは単純で、^f冷媒になるものを上部に置いて、電気が供給されなくなったら自然 ^g循環で冷たい空気が下におりてくる仕組みになっています。暖かい空気が上昇し、冷たい空気が下降するという自然の対流の仕組みを緊急時用の対策にそのまま利用しているのです。技術的にはたいしたことはありませんが、アイデアは ⁽²⁾なかなかのものだと思います。

この冷蔵庫が支持されている理由は、新興国では電気の供給が不安定で頻繁に停電が起こるからです。停電になると当然暑い国では、中に入れていた食材が ^h腐ってしまいます。電気が使えなければ、電化製品が機能を果たせなくなるのは当然り前のことですが、この製品はそういう場合でも一定時間役割を果たせるようにしていることを売りにしています。(ウ) 自然の法則を利用して、安価でそれを可能にしているので、市場から広く支持を得ているのです。

洗濯機も同じです。インドでは二槽式で一万円以下の製品がよく売っていますが、そもそも日本で主流の全自動で ⁱ乾燥機能つきの洗濯機は使えません。そんなに電力がかかるものは使えませんし、全自動の使用に耐える水質の確保もおぼつかない場所が多いからです。

慣用句に「ところ変われば品変わる」というのがありますが、国や土地がちがえば生活環境は異なるし、民族や人種がちがえば風俗や生活習慣なども異なります。本書ではそれを人々が感じている「価値」と表現していますが、⁽³⁾価値を製品開発に取り込むことが求められているのがいまの時代です。当たり前のことですが、これまで日本はその当たり前のことで生きていませんでした。そのようなことをやる必要性に気づいていなかったのです。そのことを ^j素直に反省して対応すれば、もともと日本人は細やかな対応には長けているので、日本の企業の製品が世界の市場で広く支持を得るのはそれほど難しくないことのように思います。

(畑村洋太郎『技術大国幻想の終わり——これが日本の生きる道』による)

(注) カースト制度はインドの伝統的な身分制度で、生まれによって社会の階級が決まり、職業や結婚が制限される仕組み。

問1 傍線部 a～j の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問2 空欄（ア）～（ウ）を補う言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ア しかし イ たとえば ウ しかも
- 2 ア しかし イ いっそう ウ ところが
- 3 ア また イ しかるに ウ それでも
- 4 ア また イ 一方 ウ したがって

問3 傍線部(1)「当たり前」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 製品として備えていなければならない標準的な機能
- 2 多数の消費者が求める機能の中で特に革新的なもの
- 3 企業努力によって技術的に可能となった新しい機能
- 4 将来的な需要を見越して設計段階で組み込んだ機能

問4 傍線部(2)「なかなかのものだ」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 冷媒や電源に関する技術水準が高く、評価に値する
- 2 自然の法則にのっとっており、長期的に利用できる
- 3 安価で仕組みは単純だが、発想の鋭さが光っている
- 4 設計図が単純であり、他社にも容易に模倣ができる

問5 傍線部(3)「価値を製品開発に取り込むことが求められている」とあるが、このように筆者が考える理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 生活の基本的インフラが整っていない国では、家電市場を開拓できないから。
- 2 現地の人々の文化や習慣に合った仕様でなければ、製品が支持されないから。
- 3 日本企業の技術力では、価格の観点から新興国市場に太刀打ちできないから。
- 4 韓国のメーカーに対抗するためには、まず性能競争に勝つことが重要だから。

問6 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 日本の全自動洗濯機は新興国でも一定の支持を集めているが、乾燥機能はあまり利用されていない。
- 2 インドでは高所得層を中心に冷蔵庫や洗濯機の普及が進み、現在では日本製品の人気も高まっている。
- 3 新興国では電気の供給は比較的安定しているため、日本企業の家電がより広く受け入れられている。
- 4 韓国の家電製品は新興国のライフスタイルに合わせる工夫が評価され、現地で支持を広げている。

【二】 次の(1)～(5)の各問いに答えなさい。

(1) 次の四字熟語の空欄 に入る漢字二字を書きなさい。

温故 (昔のことを学びなおして、現在や未来にいかすこと)

(2) 熟語の構成が他と異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 不安
- 2 安否
- 3 功罪
- 4 首尾

(3) 次の表現の傍線部は誤っている。正しい漢字二字を書きなさい。

なにごととも油断対敵だ。

(4) 「石橋を叩いて渡る」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 無理をして進むさま
- 2 物事が進まないさま
- 3 物事を軽んじること
- 4 慎重に行動すること

(5) 大江健三郎の作品を、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 細雪
- 2 死者の奢り
- 3 小説神髓
- 4 ころも

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) コロナ禍の2020年において、社会的孤立の最前線に立たされたのは女性たちでした。一斉休業によって大量失業の矢面に立たされ、孤立した人たちの多くが女性だったからだけではありません。職に就いていない専業主婦の女性たちもまた、ステイホームのかけ声の下で深刻な孤立状況に追い込まれました。夫や子どもなど家族の皆で家庭にいる時間が増えたのですから、孤立とは正反対の動きが進んだように見えますが、実はそんなことはなかったのです。

ステイホームのかけ声の下で強調されたのは家族の絆^あです。そのため、家族がいたとしても、そこに安心できる居場所を見出^{みだ}せない人たちは、なおさらのこと、孤立感や不遇感を募らせていくことになりました。望ましい人間関係への期待水準が上がれば上がるほど、現状との間に大きな落差を感じやすくなっていくからです。事実、自殺者の多くはたしかに無職の女性でしたが、そのなかでも同居人がいる者に集中していました。

例年と比較して、2020年に失業者の自殺が増加したのは事実です。しかし先ほど触れたように、それはこの年の後半になって生じた現象です。ところが専業主婦の自殺は、実はこの年の前半からすでに増え始めていました。しかも、この年の後半になると、それは失業者の自殺の増加率を上回るペースで増えていきました。ステイホームがヨウ^aセイ^aされるなかで、家族との人間関係にトラブルを抱え込んでいた女性が逃げ場を失ったとともに、ことさら絆が強調される風潮のなかで、孤立感や不遇感がさらに募っていったからだと考えられます。絆への期待水準が上がったために、現状との間に大きな落差を感じやすくなったのです。

コロナ禍において、ステイホームとともに強調されたのはソーシャル・ディスタンスです。その本来の趣旨は、空気感染を防ぐためのフィジカル・ディスタンスだったはずですが、急拡大した感染への恐怖から、それはメンタル・ディスタンスとしての様相も呈していきました。感染リスクを少しでも下げようと、あまり親密ではない人たちとの交流を控え、さらに感染に対する不安のはけ口として、Xが疎^{おそ}かだと一方的に決めつけられた人たちや、運悪く感染してしまった人たちを攻撃する光景も目につくようになりました。

離婚率と自殺率の関係を過去のデータで見ると、男性の場合には両者の間に強い正の相関があります。離婚率が上昇すると自殺率も上昇を示すのです。ところが、女性の場合には弱い負の相関が見られます。離婚率が上昇すると自殺率は減少するのです。ほぼ職場と家庭にしか居場所がない男性は、離婚によってその拠点の一つを失うと、たちまち孤立状態におちいってしまいやすいのに対して、女性の場合には職場や家庭以外でも親密な関係を育んでいることが多く、むしろ夫の抑圧から解放される利点のほうが大きいです。事実、無職者が非常に高い自殺率を示すのは男性の特徴といえます。

ところが、コロナ禍におけるメンタル・ディスタンスは、女性たちの多くを(2)家庭内へと幽閉し、外の世界と接触する機会を奪ってしまいました。先ほど触れた厚生労働省の調査によれば、コロナ禍で「家族・親戚・友人などに会えないこと」にストレスを感じた人は、就業形態別にみると専業主婦が最も多く、60%を超えています。専業主婦であることから、ここで該当するのはおそらく「親戚・友人など」でしょう。病理的な家族関係からの逃げ場が失われる一方、家族どうしの絆がカ^bジヨウに称揚されることで、彼女らの孤立感や不遇感はますます募っていったのです。

ちなみに、女性の場合に離婚率と自殺率の間で負の相関が弱いのは、女性のなかには男性と同様に正の相関を示す一群もいるからだと考えられます。しかし、負の相関を示す一群のほうを凌^あぐほど大きなキ^cボで存在しているため、両者を差し引きすると負の相関のほうに優位に表^あわれてくるでしょう。それに対し、男性の場合に離婚率と自殺率の間で強い正の相関が見られるのは、職場と家庭にしか居場所がない人のほうが圧倒的に多いからだと考えられます。実際、配偶者と死別した人・離婚した人・未婚の人は、結婚して家庭を持っている人と比べると自殺率が3倍以上も高くなります。自殺が孤立の病であるといわれる所以^{ゆゑ}でしょう。

2020年には、20歳未満の自殺者も際立って増加しました。同様の事態がおそらく若年層でも起きていたからでしょう。自殺率の上昇は、確かにすべての年齢層で見られた現象です。しかしその倍率は、若年ほど高い傾向を示しており、20歳未満では前年比の2倍で過去最多となりました。とくに10代の女性で増加率が凄^あまじかったのはいうまでもありません。いま述べてきたように、人間関係の孤立感と人生の不遇感は、男性より女性のほうが強く刺激されやすい構図になっているからです。2020年は、とりわけ若年層の女性において社会的孤立が深刻化した年だったといっています。

緩やかに開かれたつながりに対する人々の心理的距離が拡大し、家庭内だけが日常の居場所になると、夫からの暴力にせよ、親からの虐待にせよ、固く閉じた緊密な関係のなかで息苦しさを覚えている人にとって、安心して逃避できる場所が奪われてしまいます。だとすれば、このような居場所のdソウシツは、2020年ほど極端なカタチではないに

せよ、実は近年の若年層の全体に拡がってきた現象といえるのではないのでしょうか。先ほど触れた厚生労働省の調査では、「居場所がないと感じること」にストレスを覚える人は、男女ともに年齢が低くなるにつれて多くなっており、20歳未満で最高値を示しています。この年齢層の自殺者数が高どまりを続けてきたのは、そこに同様のメカニズムが働いてきたからではないでしょうか。

第二次大戦後の日本で自殺者が急増したのは、1990年代後半でした。この時期は、戦後の日本にとって大きな転換点に当たっていました。国民一人当たりのGDPの推移を見ると、それまでほぼ右肩上がりだったものが、この時期を境にほぼ横ばいへと転じるのです。坂道をひたすら上り続けた時代から、平坦な高原を歩き始める時代へと、社会全体が大きく変貌したのがこの時期でした。

自殺率に対して時代の影響が世代によって異なるのは、そこに世代文化の相違が介在しているからです。事実、文化の影響は内外の差違にも表われており、10代後半の死因の第1位が自殺であるのは、先進諸国のなかで日本だけに特有の現象です。それと同様に、国民経済における歴史的变化は、文化への衝撃を通じて私たちの人間関係にも大きな影響を及ぼします。経済状況の大変化に、コオウするかたちで、人間関係の流動化が一気に加速してきたのです。

この時期は、ちょうどインターネットの普及期にも当たっていますから、ネットの発達が人間関係の流動化を押し進めたという意見もしばしば見受けられます。もちろん、それも間違いではないでしょう。ネット通信網の発達が、私たちの人間関係に大きな影響を与えたのは事実です。しかし、ネットを媒介とした人間関係を流動性の激しい気体にしたとえるなら、それは気化する以前にまず固体から液体へと変化している必要があります。^③人間関係の液化化という前提が社会の側にあつたからこそ、それはネットによってさらに加熱され、気化していったのです。そもそも現在のような様相でネットが浸透したのは、ただ単にその技術が進歩したからではなく、人間関係の流動化が進んだ結果、その不安定な関係を円滑に維持していくために、私たちがこのようなコミュニケーション・ツールを強く欲するようになったからなのです。過去のさまざまな技術の発達史を紐解いてみればすぐに気がつくように、私たちの生活上の必要性こそが技術の発達を方向づけてきたのです。

(土井隆義 「親ガチャという病 生きづらさのなかで固定化されゆく“自己像”」
 (『親ガチャという病』所収) による／出題の都合上、一部中略した箇所がある)

問1 傍線部 a s e のカタカナにあたる漢字を含むものを、各群のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記しなさい。

a ヨウセイ

- 1 睡眠からカクセイする。
- 2 図書館利用時間の延長を自治体にセイガンした。
- 3 イベントはセイキョウのうちに終了した。
- 4 有望な研究者が三十代でソウセイした。
- 5 軍隊が敵地をセイフクした。

b カジョウ

- 1 不動産のジョウト契約を結んだ。
- 2 処方されたジョウザイをのむ。
- 3 お酒をジョウゾウする。
- 4 工場のジョウインが事務所に移動する。
- 5 ジョウスイ器をとりつける。

c キボ

- 1 交通安全をキガンする。
- 2 いらぬ書類をハキする。
- 3 熱帯地域のウキを経験する。
- 4 関係がキハクになりつつある。
- 5 社会のキノクを守る。

d ソウシツ

- 1 彼はソウネン期にさしかかった。
- 2 驚きすぎてソウシンした。
- 3 今回の問題をソウゴウして考える。
- 4 新しい文化をソウシュツする。
- 5 シツソウしていた知人が見つかる。

e コオウ

- 1 お店のコキヤク情報を整理する。
- 2 心臓のコドウが速くなった。
- 3 役職をコショウとして用いる。
- 4 成績をみんなにコジする。
- 5 家族のコセキを調べる。

問2 傍線部(1)「コロナ禍」とあるが、これに関する説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 ステイホーム期間に孤立感を募らせたのは主に高齢者であり、若年層はあまり孤立感を感じていなかった。
- 2 社会的接触が減少した一方で、家庭内ではむしろ信頼関係の再構築が進んだため人々の孤立感は一時的に減少した。
- 3 外出自粛によって外部との交流が断たれたため、人々が抱える孤立感の原因は主に地域社会の崩壊にある。
- 4 家庭内の問題はコロナ禍による一時的なものであり、ステイホームが終われば自然と孤立感は解消される。
- 5 家庭内での孤立感は緩和されたように見えたが、実際には安心できる場所を見出せない人々が存在した。

問3 傍線部A「孤立感」、B「メンタル・ディスタンス」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、各群のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記しなさい。

A「孤立感」

- 1 他者から関係を断たれたような感覚
- 2 家族から精神的に自立している感覚
- 3 社会で生きる上で感じる強い違和感
- 4 周囲の人物に強く依存しすぎる状況
- 5 物理的に距離が遠く離れている状況

B「メンタル・ディスタンス」

- 1 物理的な距離を感じることに
- 2 心理的に感じる隔たりのこと
- 3 精神を病んで滅入ってしまうこと
- 4 社会のルールから逸脱すること
- 5 心身の不調が抑えられないこと

問4 空欄 X を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 コミュニケーション
- 2 社会的交流
- 3 予防措置
- 4 心理的支援
- 5 心理的安全

問5 傍線部(2)「家庭内へと幽閉し、外の世界と接触する機会を奪ってしまいました」とあるが、この表現の効果としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 家庭を人間関係の形成を促す根底の場として位置づけ、外部との交流を遮断する役割を示している。
- 2 家庭を外部から隔絶された閉鎖空間として描き、家庭内における孤立の深刻さを強調している。
- 3 社会全体として感染対策を行うための機能が家庭に集約された点を、批判的に伝えている。
- 4 家庭が人間関係を再構築するための場としてみなされた点を示しつつ、その課題を指摘している。
- 5 家庭を精神的な庇護の空間として強調し、女性の社会的不安を払拭する契機として描いている。

問6 傍線部③「人間関係の液状化という前提が社会の側にあつたからこそ、それはネットによってさらに加熱され、気化していったのです。」とはどういうことか。この説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 人間関係の流動化という傾向は、インターネットの普及より前から社会全体でみられたということ。
- 2 インターネットの技術が進歩したために、人間関係が急速に不安定になってきているということ。
- 3 人間関係は常に固体のように安定しており、インターネットの進歩による影響は限定的であるということ。
- 4 インターネットが発達するよりも前に、人間関係は完全に固定化されてしまったということ。
- 5 人間関係の液状化ともよばれる変化は、インターネットとは無関係に起こったことであるということ。

問7 次は本文の内容を整理するために作成した「メモ」である。これについて空欄甲・乙を補うのにふさわしいものを、各群のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号を記しなさい。

〔メモ〕

① コロナ禍において女性の孤立が深刻化

←

② スタイホームや絆の強調 ↓ 家庭内での居場所を見出せない ↓

甲

③ それゆえ、乙が重要になる

〈甲の選択肢〉

- 1 働いている女性の収入減が主な要因といえる
- 2 感染症対策の正当な結果にすぎない
- 3 家庭以外の新しい人間関係を模索する
- 4 離婚率の増加により孤立が進行する
- 5 家庭以外との関係遮断が追いつちをかける

〈乙の選択肢〉

- 1 居場所の多元性の意識
- 2 盤石な医療体制の整備
- 3 家庭内の役割の見直し
- 4 男性の孤立感への配慮
- 5 社会経済的支援の拡充

問8 次は本文を読んだ五人の生徒が語り合ったものである。本文の内容と合致しない意見を一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 Aさん——専業主婦の女性たちは、家族関係の悪化や家庭内での孤立感が深刻化した場合に、精神的な逃げ場がなくなってしまうようだね。
- 2 Bさん——スタイホームのよびかけは家族の絆を強調したけれど、かえって孤立感や不遇感を持つ人々を追い込んでしまったのではないかな。
- 3 Cさん——筆者は、コロナ禍が物理的距離だけでなく心理的距離を拡大させて、特に女性の社会的孤立や精神的負担を増大させた指摘しているね。
- 4 Dさん——さらにインターネットの普及は、人間関係を根本的に破壊し、誰もが孤立を余儀なくされる社会構造を生み出したと筆者は強調しているよ。
- 5 Eさん——筆者は、人々の生活や人間関係の変化を反映して、インターネットなどの技術が発達してきたのではないかと考えているね。

設問は以上です。